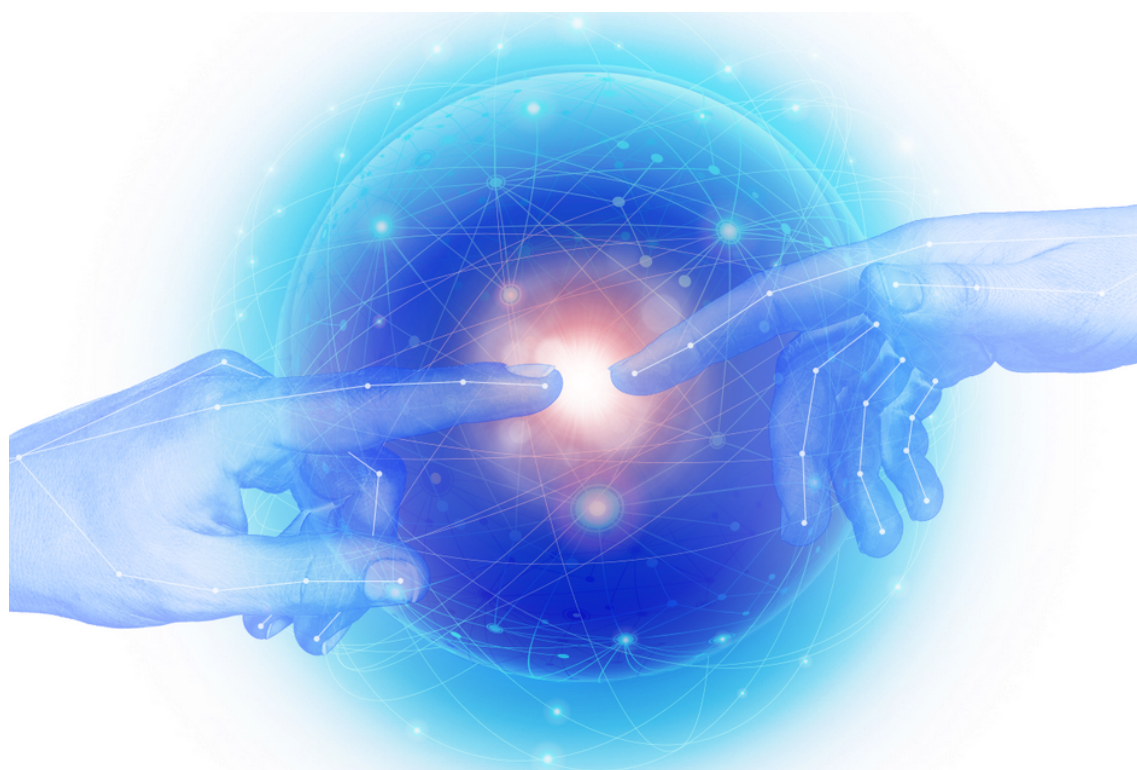


2024 年度 URCF 活動報告書



2025 年 3 月

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム





組織構成

企画推進委員会

1. 企画推進委員会の 2024 年度活動報告

2016 年度から東京大学の廣瀬通孝教授を会長に迎え、従来の映像や音響で「リアリティ・驚きを創発」する臨場感技術だけでなく、「心地よさ・楽しさの創発」「コミュニケーションの創発」を実現する「快適性」「インタラクション」技術も新たに取り入れて、新生 URCF として活動を進めてきている（下図参照）。2024 年度は、URCF シンポジウム 2024 を「XR・メタバース・生成 AI 技術の進化と産業革命の最前線」をテーマにハイブリッド形式で開催するとともに、国際会議(3DSA)を開催し、関連技術の最新動向の把握・共有などを行った。

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム

URCF (Ultra-Realistic Communication Forum)

～ 人の心に快適・感動・活力を生み出す感性の創発技術～



新生 URCF のコンセプト

(1) 活動体制について

2024 年度は、10WG の体制で活動を行った。各 WG の活動の詳細は別途報告する。

(2) URCF シンポジウム開催

2024 年度の総会はこれまで通り 6 月にオンラインで開催したが、URCF シンポジウム 2024 は 9 月 4 日に日本科学未来館(東京)においてリアル開催した (URCF/NICT 共催、総務省後援)。

今回の URCF シンポジウムでは、「XR・メタバース・生成 AI 技術の進化と産業革命の最前線」をテーマに、国際標準化における最新動向に関する基調講演、生成 AI・メタバー

スの産業応用に関する特別講演2件、および「リアル・バーチャル融合がもたらす革新と挑戦」と題するパネルディスカッションをハイブリッド形式で行うとともに、会場では、超臨場感技術の先端的な体験デモ展示10件を実施し、参加者間の有意義な議論と交流を深めることができた。シンポジウム終了後、参加者に対してアンケートで感想を伺ったところ、「大変参考になった」「参考になった」を合わせると回答者の96%に上り、今回のシンポジウムが大変好評だったことが分かった。

【日時】2024年9月4日（水）13:00～17:30

【場所】日本科学未来館およびオンライン配信

【プログラム】

13:00～13:10 主催者挨拶 廣瀬 通孝 氏（URCF 会長／東京大学 名誉教授）

来賓 挨拶 竹村 晃一 氏（総務省 国際戦略局 局長）

13:10～14:00 基調講演

「メタバース・没入型ライブ体験の国際標準化における最新動向」

今中 秀郎 氏（国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） 参事）

14:00～14:40

特別講演1

「生成AIと産業メタバースのイノベーションと未来」

田中 秀明 氏（NVIDIA シニアマネージャー）

14:40～15:40 超臨場感コミュニケーションの先端技術に関するデモ展示

15:44～16:20

特別講演2

「建設分野におけるメタバース空間を活用した遠隔検査システムの取り組み」

上田 淳 氏（清水建設株式会社 デジタルデザインセンター 所長）

16:25～17:25 パネルディスカッション

「リアル・バーチャル融合がもたらす革新と挑戦」

・話題提供「現場拡張メタバースと産業応用」

藤原 貴之 氏（(株)日立製作所 研究開発グループ 主任研究員）

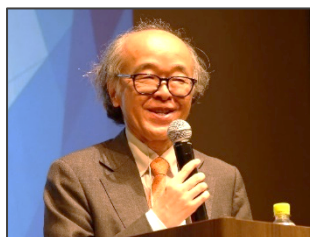
・パネリスト：田中 秀明 氏（NVIDIA）、上田 淳 氏（清水建設(株)）、
藤原 貴之 氏（(株)日立製作所）

・モデレータ：安藤 広志 氏

（URCF 企画推進委員長／情報通信研究機構 上席研究員）

17:25～17:30 閉会挨拶 茨木 久 氏（URCF 副会長／情報通信研究機構 理事）

18:00～20:00 交流会



主催者挨拶：廣瀬 通孝氏
(URCF 会長/東京大学)



来賓挨拶：竹村 晃一氏
(総務省 国際戦略局)



基調講演：今中 秀郎氏
(NICT)



特別講演 1：田中 秀明氏
(NVIDIA)



特別講演 2：上田 淳氏
(清水建設)



パネルディスカッション「リアル・バーチャル融合がもたらす革新と挑戦」
パネリスト：田中 秀明氏、上田 淳氏、藤原 貴之氏 (榊日立)、モデレータ：安藤 広志 氏



デモ展示会場の様子

閉会挨拶：茨木 久氏
(URCF 副会長/NICT)

（３） 羽倉賞受賞

羽倉賞は、一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会（表技協）の創設者であり、3D 立体映像などの最先端表現技術の研究・普及に多大な功績を残された故羽倉弘之氏の功績を称え、表現技術の質を高め広い分野への普及に貢献するために、平成 29 年に表技協により創設された賞である。2024 年度は、URCF が推薦した取組みに対して、NHK 放送技術研究所空間表現メディア研究部が開発した「光源アレーを用いた 3 次元ディスプレイ」が第 8 回 羽倉賞の「優秀賞」を受賞した。今回の受賞では、好みに応じて 3D と 2D の映像を選択して視聴できるディスプレイの開発に成功したことが高く評価された。



第 8 回羽倉賞授賞式の様子

（４） 国際会議、学会等との連携

●国際会議

国際会議 3DSA (3D System and Applications) を URCF の主催で 2024 年 8 月に韓国（済州島）でリアル開催した（詳細は WG の活動報告で紹介）。

●他組織との共催等

2024 年度は、多感覚研究会、高臨場感ディスプレイフォーラム、バーチャルリアリティ学会、映像情報メディア学会等と共催でセミナー/シンポジウムを開催した。

（５） WG 活性化の取組み

2024 年度は、オンラインでのセミナー・シンポジウムに加えて、コロナ禍で自粛していた実空間での WG 活動の取組みも再開している。11 月 11 日には「先端映像評価 WG」において、HMD 映像の知覚に対する体験会（会場：東京情報専門職大学）を実施し、11 月 20 日には「XR 遠隔コミュニケーション WG」において、8K 映像・22.2ch 音響システムの体験会（会場：アストロデザイン㈱）を実施した。また、2025 年 2 月 21 日に WG 連携委員会を開催し、WG リーダの方々から各 WG の取組み状況について報告いただき、企画推進委員と WG リーダの方々で各 WG の課題の共有と今後の活動方針/連携方法等について議論を行った。企画推進委員会としては、各 WG 活動のさらなる活性化に向けて支援を続けていきたい。

ワーキンググループ

2. 各ワーキンググループ(WG)の2024年度活動報告

2024年度は10WG体制で活動を推進した。計10WGの名称、概要、リーダは以下の通りである(Alphabet/五十音順)。

XR遠隔コミュニケーションWG	リーダー： 今井 弘二(情報通信研究機構) 概要： Beyond 5G時代を見据えて、遠隔でもリアルな体験を共有できる多様なXR技術・プラットフォームに関する技術的/社会的課題をユーザサイドから検討と議論を実施
XR社会活用WG	リーダー： 町田 聡(アンビエントメディア/URCFアドバイザー委員) 概要： プロジェクションマッピング、AR、VRなど実空間にサイバー情報を融合するサイバーフィジカルに関連する最新情報を共有
アフェクティブメディアWG	リーダー： 鳴海 拓志(東京大学) 概要： 人の価値判断の根底にある感性・情動を分析し、人の心に快適・感動・活力を生み出す感性創発技術を検討
クロスモーダルデザインWG	リーダー： 小泉 直也(電気通信大学) 概要： クロスモーダルな感覚情報提示手法について、その可能性や適用限界、評価方法、利用法、デザイン等について議論・体系化
実世界コンテンツWG	リーダー： 谷川 智洋(東京大学) 概要： 臨場感体験や追体験を実現するVR/AR技術を公共空間、日常世界へと展開し、日常生活や地域に結びつけた実世界コンテンツを実現
情動環境WG	リーダー： 安田 啓紀(日建設計) 概要： 人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献
先端映像評価WG	リーダー： 久武 雄三(静岡大学) 概要： 頭部追従型HMD映像やドーム型全天映像の没入型映像が人に与える影響(正負の効果)等に関する定量的評価について議論
超臨場感映像WG	リーダー： 山本 健詞(徳島大学) 概要： 立体映像だけではなく臨場感ある映像すべてを対象とし、セミナーの開催を中心に活動
超臨場感音響WG	リーダー： 亀川 徹(東京藝術大学) 概要： 超臨場感音響技術に関する最新動向を会員に提供するためのセミナーやデモセッション実施に向けて検討
超臨場感/ICT超高齢社会活用WG	リーダー： 檜山 敦(一橋大学、東京大学) 概要： 超臨場感技術/ICTを活用した超高齢社会におけるWell-beingに対する技術的アプローチを議論

WG 構成

(1) XR 遠隔コミュニケーションWG

本WGのテーマを含む幅広い内容について情報共有や議論を進めた。R6年度では、URCFの活性化も目的として、URCF会員全体向けにコミュニケーションにおいて重要な要素である視覚映像や音響の体験会を開催した。また、他のWG(実世界コンテンツWG、クロスモーダルデザインWG)とも連携してIEEE ICCEにてスペシャルセッションも開催し、後日にCES(コンシューマー・エレクトロニクス・ショー;毎年1月にアメリカのラスベガスで開催される世界最大級のテクノロジー見本市)のXRに関する展示とSphere(世界最大級の球体型エンターテインメント施設)の体験も含めた報告会も実施した。また、次年度以降の発展的な活動に向けて、新たにサブリー

ダ（東京大学 近藤 亮太 特任助教）を加えて体制を強化し、登録メンバーも2名追加した。

●「2024 年度 XR 遠隔コミュニケーション・ローカル会合」

【日時】2024 年 7 月 10 日（水）18:00-19:30

【場所】オンライン

【参加者数】7 名

【プログラム】

1. 話題提供「日本政府の AI 騒動からみる XR の展望」 NICT 今井 弘二
2. 今年度の計画について意見交換 WG メンバー

【概要】

ChatGPT などの生成 AI の目覚ましい発展に対応する日本政府の動きや、XR に関する類似点について紹介して議論を行った。また、後半では、今年度の計画や他の WG とのコラボ企画などについて登録メンバーと意見交換を行った。

●「2024 年度 XR 遠隔コミュニケーション・体験会」

【日時】2024 年 11 月 20 日（木）18:00-21:30

【場所】東京都大田区南雪谷 1-5-2 アストロデザイン株式会社

【参加者数】10 名（内：アストロデザイン 2 名）

【プログラム】

1. 体験会 アストロデザイン
2. ネットワークワーキング 参加者

【概要】

多様な 8K 映像機器を揃えるアストロデザイン社にて、XR に結び付く次の製品やコンテンツを体験する機会を設け、その後で参加者で意見交換を含むネットワークワーキングを行った。

・ 8K カメラと HMD

8K×8K カメラの高解像度で広視野な映像による没入感の高い映像体験

・ Tamatoon

サラウンドシステムにも利用でき、設置工事が不要なスピーカーの音響体験



Tamatoon

・ 8K シアター

人間の視覚性能に近い映像の要素を含む 8K3D や 4K240Hz による高臨場感体験



8K シアター

● 「2024 年度 XR 遠隔コミュニケーション・視察報告」

【日時】 2025 年 2 月 26 日（水）13:00-14:30

【場所】 オンライン

【参加者数】 20 名（最大の参加人数）

【プログラム】

1. 開会挨拶

東京大学 谷川智洋

2. IEEE ICCE スペシャルセッション開催報告 東京大学 伊藤研一郎
3. CES2025 参加報告 東京大学 近藤亮太
4. Sphere 報告 ～パネルディスカッション～ 司会: NICT 今井弘二

【概要】

URCF の他の WG（実世界コンテンツ WG、クロスモーダルデザイン WG）と合同で開催した、IEEE ICCE のスペシャルセッション（Ultra-Realistic Technologies for Consumer Electronics）の様子と、CES の視察、Sphere の体験の報告を行った。

Ultra-Realistic Technologies for Consumer Electronics 7件の発表が集まった

1439 *Research on Acquisition and Validation of Unconscious Interest Based on Gaze Estimation Using a See-Through HMD*
Akihito Shiohara and Shiro Ooi (Osaka Institute of Technology, Japan)

1442 *Dynamic Lighting for Enhanced Sense of Depth in 3D Mid-Air Image*
Mitsuhiko Ueda (The University of Electro-Communications, Japan); Kazuo Kozumi (University of Electro-Communications, Japan)

1439 *Proactive Autostereoscopic 3D Display Using a Planar Barrier with High Image Quality and Wide Viewing Area*
Takafumi Kubo (Hiroshima University & RoadEdge Inc., Japan); Kiyosuke Yamaguchi (Hiroshima University, Japan); Goro Yamaguchi (RoadEdge Inc., Japan)

1508 *Metaverse Public Lab - v.2*
Ryota Kuroki, Kimihiko Sakurada, Akira Oyanagi, Tomohiro Tanikawa and Michitaka Himeji (The University of Tokyo, Japan)

1521 *Spatial Media Applications by Use of Aerial Display Based on Aerial Imaging by Retro-Reflection*
Hiroyuki Yamamoto, Shunro Oki and Shiro Suyama (Ritsumeikan University, Japan)

1534 *Open Source Metaverse Platform System for Educational Engagements and Research Activities Using Layered Multicast Method*
Kenshiro Ito, Yong-Hao Hu and Ayumi Igarashi (The University of Tokyo, Japan)

1547 *Autonomous Avatar and VR Simulator for Various Training Purposes and Situations*
Tomohiro Tanikawa (The University of Tokyo, Japan)

Best Session Presentation Award

IEEE ICCE のスペシャルセッションのプログラム（報告資料から抜粋）

○



CES の報告資料から抜粋

左：会場の主要入口、右：会場内の様子

Sphere見学

- ドーム型ディスプレイ
- 外側は飾り
 - 面積約5万4000㎡
 - 高さ約112m
 - 幅約157m
 - 2K LED
- 開発費
 - 当時約23億ドル
 - 当時約3500億円



Sphere の概要（報告資料から抜粋）

（２） XR 社会活用 WG

2024 年度は運営グループの変更もありセミナー開催ができなかった。

（３） アフェクティブメディア WG

2024 年度は、クロスモーダルデザイン WG と共同でセミナーを 2 回実施した。

●セミナー「Future Humanity－感受性と Human Creativity のゆくえ」

【日時】2025 年 8 月 29 日(木)

【場所】UNIVERSITY of CREATIVITY 東京キャンパス（東京都港区赤坂 5-3-1 赤坂 Biz タワー 23 階）

【参加者数】約 30 人（講演者を含む）

【概要】

「Future Humanity」は、クロスモーダル知覚（五感の相互作用）を活用したプロダクトやサービス開発に取り組んできた博報堂のプロジェクト「Human X」が、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）のクロスモーダルデザイン WG および UNIVERSITY of CREATIVITY（UoC）と共催で開催しているオープンダイアログです。

2024 年 8 月 29 日に開催された第 2 回では、感覚過敏の当事者として課題解決に取り組んでいる加藤路瑛さん、フランス料理のシェフを経て現在はチーズケーキブランドの代表として食体験をデザインしてきた田村浩二さん、そして感覚の共有からウェルビーイングまで横断的に研究している感覚研究者の渡邊淳司さんをゲストスピーカーに迎え、「感受性と Human Creativity」というテーマの対話が展開されました。

【プログラム】

レポート : <https://www.hakuhodo.co.jp/magazine/113929/>

●セミナー「Future Humanityークローズドワークショップ」

【日時】2025 年 3 月 27 日(木)

【場所】UNIVERSITY of CREATIVITY 東京キャンパス（東京都港区赤坂 5-3-1 赤坂 Biz タワー 23 階）

【参加者数】約 10 人（講演者を含む）

【概要】

「Future Humanity」は、クロスモーダル知覚（五感の相互作用）を活用したプロダクトやサービス開発に取り組んできた博報堂のプロジェクト「Human X」が、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）のクロスモーダルデザイン WG および UNIVERSITY of CREATIVITY (UoC) と共催で開催しているイベントです。

2025 年 3 月 27 日に開催された第 3 回では、多感覚統合と食の研究者である心理学者の和田有史さんをゲストに迎え、「感覚のジャーニー」というテーマで、新しい感覚体験のデザインツールの試行を行いました。

（４） クロスモーダルデザイン WG

2024 年度は、アフェクティブメディア WG と活動し、多感覚研究会と共催でワークショップを 1 回、博報堂のプロジェクト「Human X」・UNIVERSITY of CREATIVITY(UoC) と共同でセミナーを 2 回開催した。

●第 15 回多感覚研究会

【日時】2024 年 11 月 16 日(土)～2024 年 11 月 17 日（日）

【場所】早稲田大学戸山キャンパス 33 号館（東京都新宿区戸山 1-24-1）

【参加者数】70 人程度（講演者を含む）

【概要】

多感覚研究会は、分散しがちな異なる感覚を研究する人々が集まる機会を作ること、知見の共有、議論と連携の促進、多感覚研究の活性化を目指して開催されており、URCF クロスモーダルデザイン WG でも、同様の目的で活動していることから、多感覚研究会と共催で、視覚・聴覚・体性感覚・味覚・嗅覚・内受容感覚など 1 つ以上の感覚相互作用に関する最新研究の紹介、議論を行うワークショップを開催した。

【プログラム】

スケジュール

2024年11月16日（土）		2024年11月17日（日）	
		9:30	受付開始（33号館-3F）
		10:00	ポスター発表&デモ展示 （33号館 3F 第一会議室）
12:15	受付開始（33号館-3F）	12:00	お昼休み
13:00	開会挨拶（38号館 2F AV教室） チュートリアル講演1	13:15	（38号館 2F AV教室） クロスモーダルデザインワー クショップ
14:15	運営企画シンポジウム 「楽しい運動学習研究」 （38号館 2F AV教室）	15:00	チュートリアル講演2 （38号館 2F AV教室）
16:00	ポスター発表&デモ展示 （33号館 3F 第一会議室）	16:00	閉会挨拶 （移動）
18:00	（移動）	17:00	Evening Meetup @Baird Beer 高田馬場 Tap Room
18:30	懇親会@早稲田大学 （38号館 1F 戸山カフェテリア）		

クロスモーダルデザインワークショップ

本セッションは、前半、河合隆史教授によるトーク「立体視映像とクロスモーダルデザイン」、後半、河合隆史教授と平尾悠太郎助教による対談「アカデミアにおけるプレゼンスの出しかた」の2部から構成されます。前半のトークでは、多感覚の相互作用であるクロスモーダルという観点から両眼立体視をとらえ、両眼視差の「ずれ」のデザインという、近年、再度注目されつつあるトピックについてお話しいたします。また後半の対談では、若手とシニアの研究者が、トップカンファレンスやジャーナルへの投稿、SNSの活用やインターン生獲得、イベントでの展示や企業との共同研究・社会実装など、研究者・研究室としての多様なプレゼンスの出し方やその意義について議論します。

河合隆史先生

「立体視映像とクロスモーダルデザイン」

シニア × 若手（河合隆史先生・平尾悠太郎先生）

「アカデミアで生き抜くプレゼンス戦略」

●セミナー「Future Humanity－感受性と Human Creativity のゆくえ」

【日時】2024年8月29日（木）

【場所】UNIVERSITY of CREATIVITY 東京キャンパス（東京都港区赤坂5-3-1）

赤坂 Biz タワー 23 階)

【参加者数】約 30 人（講演者を含む）

【概要】

「Future Humanity」は、クロスモーダル知覚（五感の相互作用）を活用したプロダクトやサービス開発に取り組んできた博報堂のプロジェクト

「Human X」が、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）のクロスモーダルデザイン WG および UNIVERSITY of CREATIVITY（UoC）と共催で開催しているオープンダイアログです。

2024 年 8 月 29 日に開催された第 2 回では、感覚過敏の当事者として課題解決に取り組んでいる加藤路瑛さん、フランス料理のシェフを経て現在はチーズケーキブランドの代表として食体験をデザインしてきた田村浩二さん、そして感覚の共有からウェルビーイングまで横断的に研究している感覚研究者の渡邊淳司さんをゲストスピーカーに迎え、「感受性と Human Creativity」というテーマの対話が展開されました。

【プログラム】

レポート : <https://www.hakuhodo.co.jp/magazine/113929/>





●セミナー「Future Humanity—クローズドワークショップ」

【日時】2025年3月27日(木)

【場所】UNIVERSITY of CREATIVITY 東京キャンパス（東京都港区赤坂5-3-1
赤坂Bizタワー 23階）

【参加者数】約10人（講演者を含む）

【概要】

「Future Humanity」は、クロスモーダル知覚（五感の相互作用）を活用したプロダクトやサービス開発に取り組んできた博報堂のプロジェクト「Human X」が、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）のクロスモーダルデザインWGおよびUNIVERSITY of CREATIVITY（UoC）と共催で開催しているイベントです。

2025年3月27日に開催された第3回では、多感覚統合と食の研究者である心理学者の和田有史さんをゲストに迎え、「感覚のジャーニー」というテーマで、新しい感覚体験のデザインツールの試行を、食べ物を作る工程を実際に行った上で、実際にその感覚を説明し合っていました。



（５） 実世界コンテンツ WG

2024年度は、実世界コンテンツの応用手法とビジネス化について議論を行った。また、地域文化資源のデジタルアーカイブ保存を再開し、デジタルアーカイブした実空間コンテンツのメタバースへの展開手法の整理、人材・制度などの調査を行った。また、XR遠隔コミュニケーションWG、クロスモーダルWGと協働で、国際会議ICCE(International Conference on Consumer Electronics)のスペシャルセッションの企画と実施を行った。さらに同時期に開催されるCESやの見学も行い共同報告会の実施も行った。

（６） 情動環境 WG

本WGでは、人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献することを目的としている。本年度は、昨年度作成した情動環境家具の製品化に向けた各種試験等を行った。また、よりパーソナルな環境で情動に働きかける技術開発の企画検討及び試作を行った。今後は、会員の皆様への情動環境家具の体験会などの検討を進めていく。



写真：試験の様子

(7) 先端映像評価 WG

先端映像、取り分け HMD 映像が人に与える影響について、様々な用途における HMD 映像の臨場感を構成する要素を明らかにし、人の感性に寄り添った映像技術の発展に寄与するための調査研究と議論を重ねた。新規メンバー5 名を加え、委員中心のヒアリング (WG 内での講演会)、国内外の学会参加報告会と議論、最新 HMD を用いた体験会を実施した。

●第1回 WG 会合

日時:2024 年 4 月 26 日(金)13:30～16:00

場所:Zoom による Web 会議

内容:新年度計画と体制の審議・決議、新メンバーを迎え各位自己紹介・WG 活動の概要説明

●第2回 WG 会合

日時:2024 年 5 月 23 日(木)13:30～16:00

場所:Zoom による Web 会議

内容:

1. ご講演

・VR 映像の印象と仮想カメラの位置・向きの関係の検討(森田委員)

- ・ARを用いた情報提示の視認性と評価(水科先生)
- 2. DW2024 速報・ISO/TC 159/SC 4/WG 2, 12 結果概要(氏家先生)
- 3. 技研公開見どころ紹介(小峯委員)
- 4. 日本人間工学会第 65 回大会概要(久武)
- 5. URCF 状況報告

●第 3 回 WG 会合

日時:2024 年 6 月 17 日(月)13:30~16:00

場所:Zoom による Web 会議

内容:

- 1. NHK 技研公開見学報告と議論
- 2. URCF 総会対応

●第 4 回 WG 会合

日時:2024 年 7 月 17 日(水)13:30~16:00

場所:Zoom による Web 会議

内容:

- 1. 日本人間工学会 65 回大会報告(久武・氏家先生)
- 2. ご講演:「視覚表示および映像の生体安全性におけるヒューマンシステムインタラクションの課題と国際標準化」(氏家先生)
- 3. URCF 総会報告(久武、安藤さん)
- 4. Apple vision pro についての情報交換/意見交換

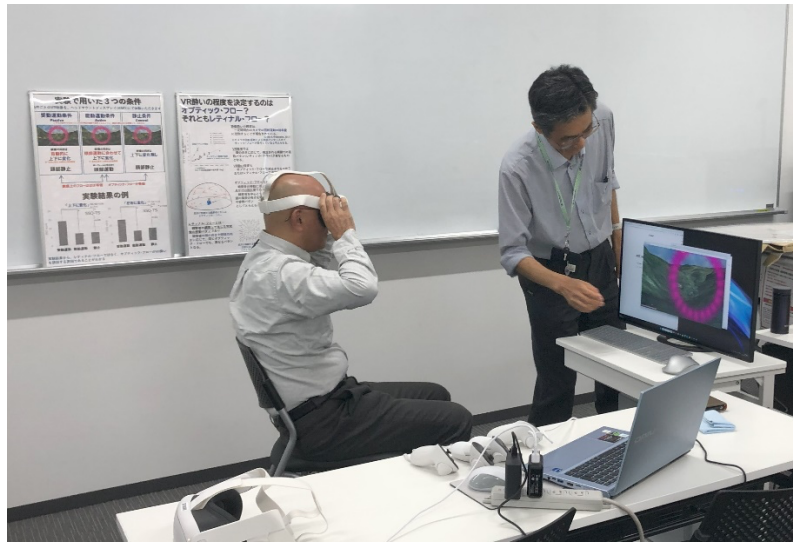
●第 5 回 WG 会合

日時:2024 年 11 月 11 日(月)13:30~17:00

場所:東京情報専門職大学+Zoom による Web 会議

内容:

- 1. 氏家先生の実験映像を HMD で見る体験会&議論
- 2. URCF シンポジウム参加報告
- 3. apple vision pro 情報交換
- 4. 10/10IDW メタバース研究会参加報告



氏家先生の実験映像を HMD で見る体験会

●第 6 回 WG 会合

日時:2025 年 3 月 28 日(金)13:30~16:30

場所:Zoom による Web 会議

内容:

1. URCF/WG 連携委員会参加報告
2. 次年度の活動計画・体制
3. 公開シンポジウムの企画
4. JEITA 人間工学シンポジウム参加報告
5. 月の錯視の議論
6. 直線偏光の生体影響の議論

(8) 超臨場感映像 WG

本年度も、URCF 主催の国際会議 3DSA(3D System and Applications)を、超臨場感映像 WG が中心となって開催した。運営グループの高木康博氏(東京農工大)が General Chair を、現 WG リーダの山本健詞(徳島大)氏が Technical Program Committee Chair を務めた。昨年度(2023 年度)は日本がホスト役となり新潟市で開催したが、本年度は韓国がホスト役となり済州島でおこなった。国際会議 IMID(International Meeting on Information Display)2024 と同時開催であった。概要は以下の通りである。

【日時】2024 年 8 月 21 日(水) - 23 日(金)

【場所】ICC JEJU、JEJU ISLAND、KOREA

【主催・共催】URCF、日本バーチャルリアリティ学会、映像情報メディア学会立体メディア技術研究会（日本）

ARMi、ETRI、RAPA、KIBME（韓国）

3DIDA、ITRI、SID Taipei Chapter（台湾）

また、Committee Meetingでは次回台湾で開催される3DSA2025について議論したが、具体的な日程と場所は改めて確定することとなった。



Paper Contribution in 3DSA 2024					Submission Country	
iMID 2024 Topics					Country	Submitted Paper
Invited	Oral	Poster	Invited	Poster		
Topic	Invited	Oral	Poster	Invited		
01. Special Topic 1: Display with Free Form Factors	3	9	20	33		
02. Special Topic 2: High Resolution Fringe Projection Technologies for XR	5	2	4	11		
03. Active-Matrix Displays	11	26	37	129	Korea	27
04. AI & Computational Technologies for Display	10	9	31	90	Japan	32
05. Applied Vision/Human Factors for Display	4	4	4	33	Taiwan	11
06. AR/VR/MR and 3D Display Optics	11	30	23	44	France	1
07. Display Electronics and Systems	3	4	18	26		
08. Display Manufacturing and Process	7	7	80	95		
09. Emerging Materials and Devices for Display Technology	4	14	58	76		
10. IC Technologies and Electronic/Optical Materials	13	9	31	53		
11. Light-emitting Materials and Applications	4	5	32	41		
12. Medical/Bio-integrated Optoelectronic Materials and Devices	2	10	20	32		
13. Metrology & Inspection Technologies for Display	6	2	28	36		
14. Micro-LEDs	7	7	31	45		
15. OLED Frontplanes	16	6	41	63		
16. Sensors and Actuators for Interactive Display	3	5	27	35		
Invited Total	12	31	94	138		
Oral Total	7	4	56	71		
Poster Total	128	148	678	860		

Presentation Category			
Invited	Oral	Poster	Total
7	8	56	71

• Oral session : 3
• Poster Session : 1



また、次の通り「高臨場感ディスプレイフォーラム 2024」を共催した。

【日時】2024 年 11 月 22 日（金）

【場所】オンライン開催

【共催/連催】超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、映像情報メディア学会（映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会、情報ディスプレイ研究委員会、立体メディア技術研究委員会）、画像電子学会（企画委員会）、電気学会（電子デバイス技術委員会）、日本バーチャルリアリティ学会、電子情報通信学会（電子ディスプレイ研究専門委員会）、（順不同）

【協賛】映像情報メディア学会（メディア工学研究委員会）、SID日本支部、画像電子学会（多次元画像研究委員会）、電気学会（電子デバイス技術委員会 エ

モーショナルディスプレイ協同研究委員会)、芸術科学会、3Dコンソーシアム、最先端表現技術利用推進協会(三次元映像のフォーラム)、照明学会(光源・照明システム分科会)、電子情報通信学会(画像工学研究専門委員会)、日本映画テレビ技術協会、日本液晶学会、日本光学会(ホログラフィックディスプレイ研究会)
(順不同)

【テーマ】 ～エモーショナルディスプレイに向けて～

【プログラム】

開会挨拶 東芝 佐々木隆

講演1 名古屋大学 大平英樹:「身体感覚から創発される認知と感情」

講演2 東北大学 佐々木拓哉:「迷走神経が伝達する情報とその意義の考察」

講演3 名古屋大学 大平英樹:「迷走神経刺激の認知・感情・生理的効果」

講演4 MUSVI 株式会社 阪井祐介:「人と世界をつなぐ「窓」- 気配を伝える技術」

講演5 北海道大学 鈴木啓介:「現実とは何か?: 実在感への認知神経科学および計算論的アプローチ」

閉会挨拶 徳島大学 山本健詞

(9) 超臨場感音響 WG

超臨場感音響 WG では、隔年でデモセッションとセミナーを交互に開催し、超臨場感コミュニケーションを支える音のシステムを、商品からプロトタイプまでレベルに関係なく実際に体験する機会の提供、および最新技術動向を共有することとしている。2020 年度以降、新型コロナウイルス感染拡大のため従来の活動ができなかったが、2023 年は対面のデモセッションを開催した。2024 年度はセミナーの開催を検討していたが、準備不足などで実現できなかったため、2025 年度はセミナー、デモセッションのどちらかを実施する予定である。

●継続的活動

各種情報を Wiki へアップし、会員間の情報共有を図った。

(10) 超臨場感/ICT 超高齢社会活用 WG

超臨場感/ICT 超高齢社会活用 WG では、リーダー及び運営グループが3年間にわたって取り組んだ、高齢者の社会参加の活性化を促進するプロジェクト「貢献寿命延伸への挑戦! ~高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装~」主催するシンポジウムの協力・後援を行った。本シンポジウムは、ハイブリッド形式で開催し、

長寿社会の新たな指標となる貢献寿命の認知度の向上と、社会参加を促進する ICT プラットフォーム「GBER」に関する社会実装研究の展開が報告され、内閣府事業の展開も含む産官学民に関係者が集まり、これからの超高齢社会について活発なディスカッションが行われた。

【日時】2025 年 2 月 27 日

【場所】東京大学工学部 11 号館長谷工 KUMA ホール

【申込者数】約 450 人

【概要】

シンポジウムでは、基調講演に、内閣府政策統括官（共生・共助担当）の八重樫嶺央氏より昨年 9 月に閣議決定がなされた高齢社会対策大綱の概要と内閣府としての政策事業展開の紹介がなされた。続いて貢献寿命延伸プロジェクトの 3 年間の成果として、貢献寿命の指標化について菅原育子氏（武蔵野大学、東京大学）、高齢者就労の実態分析について前田展弘氏（ニッセイ基礎研究所）、シニア就労ビジネスについて今城志保氏（リクルートマネジメントソリューションズ）、ICT プラットフォーム GBER の社会実装について檜山敦氏（一橋大学、東京大学）の 4 名からの報告と会場を交えてのパネルディスカッションが行われた。ディスカッションでは、高齢者の社会参加の促進における行政の役割、シニアコミュニティが GBER を活用するには、貢献寿命指標化の今後の展開、などについて行政機関やシニアコミュニティから多くの意見が出され、セッション終了後の懇親会にも続いた。



シンポジウムでのパネルディスカッション

【連絡先】

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム



超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム事務局

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27

アドコム・メディア株式会社内

TEL : 03-3367-0571 / FAX : 03-3368-1519

Email : sec@urcf.jp